

今、何の病気が流行しているか！

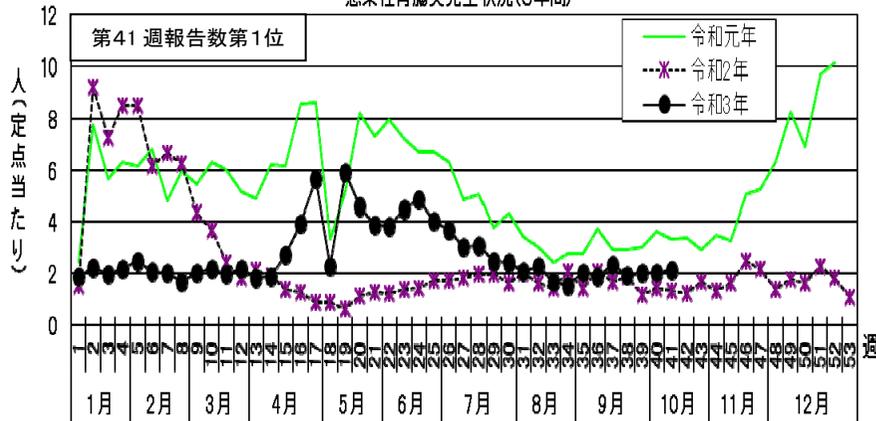
【感染症発生動向調査事業から】

令和3年10月11日（月）～令和3年10月17日（日）〔令和3年第41週〕の感染症発生状況

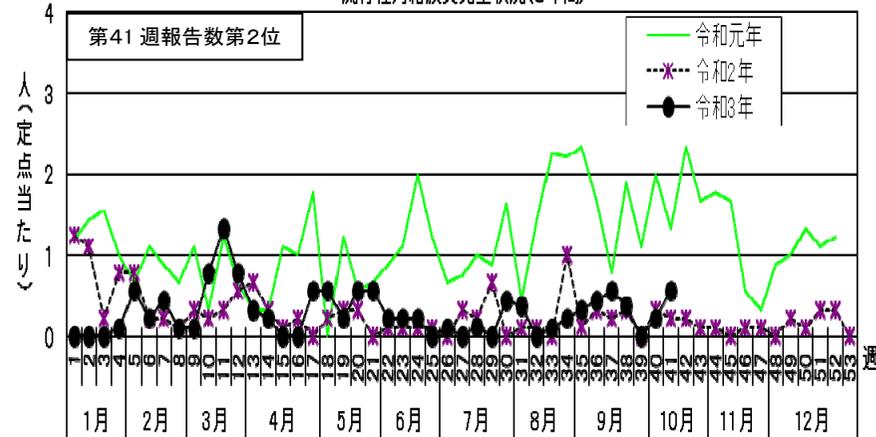
第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) 手足口病・ヘルパンギーナでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.14人と前週（2.05人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週（0.22人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.46人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.62人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



流行性角結膜炎発生状況(3年間)



季節外れの夏かせ～手足口病・ヘルパンギーナ～

手足口病やヘルパンギーナは、エンテロウイルス属のコクサッキーウイルスなどを原因とする感染症で、通常、乳幼児を中心に夏季に隔年で流行します。新型コロナウイルス感染症の流行が始まった令和2年は、ほとんど報告がありませんでしたが、今年はヘルパンギーナの患者報告数が、第40週（令和3年10月4日～10日）、第41週（10月11日～17日）にそれぞれ定点当たり0.62人、0.46人と秋口からやや増加しています。

いずれの疾患も、おおむね予後は良好ですが、まれに重症化することもありますので、念入りに手洗いをする、トイレやおむつ交換の後は排泄物を適切に処理する、タオルの共用は避けるなどの予防対策を徹底しましょう。

手足口病とは？

感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染

潜伏期間：3～5日

典型的な症状：軽度の発熱、手のひらや足の裏などに発赤を伴う小さな水疱が多発、舌や口の中の粘膜にも口内炎が多発



※基本的に予後は良好ですが、まれに重症化して髄膜炎や脳炎などを引き起こすことがあります。

ヘルパンギーナとは？

感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染

潜伏期間：2～4日

典型的な症状：突然の発熱（38～40℃程度）で発症し、咽頭痛を伴い、のどの奥に小水疱と小さな白い潰瘍が多発



※発熱は1～3日程度で、ほとんどは予後良好ですが、まれに髄膜炎、筋膜炎等を合併することもあります。

川崎市における手足口病とヘルパンギーナの発生状況
 -平成26年第1週～令和3年第41週-

